

保健医療学学会 第5回学術集会 特別講演 抄録

「我が国における理学療法士の現状と展望
～理学療法士のリハビリテーションマインド」
石川県リハビリテーションセンター
荒木 茂



日本理学療法士協会は平成28年に50周年を迎えます。その間理学療法士の数は増加しこの10年で5万人ほど増加。やがて10万人の協会になろうとしています。その半数が20才～30才台という極端な年齢構成の職種であることを自覚しなければなりません。意欲ある新人理学療法士が4～5年するとあまり研修や職場外での活動に参加しなくなり職場に引きこもる傾向があることは放ってはおけません。熱心にいろいろな研修会や社会貢献に参加する理学療法士、ほとんど参加しない理学療法士の2極化の現象がみられます。医療専門職は職場の仕事以外に専門職ボランティアとして社会貢献することが当然の義務です。それができない医療専門職集団というのは世の中から期待されなくなります。それほど勉強しなくても毎日ROMエクササイズ、筋力強化、ADLエクササイズ、歩行練習を行っていれば食っては行けませんが、理学療法士は理学作業員のようになってはいけません。

絶滅危惧種である旧国立療養所養成校出身の定年間際の理学療法士がこれまでの理学療法士人生を振り返り若い人たちに元気を注入できるような講演にできればと思います。

「我が国における作業療法士の現状と展望
～経験を振り返り次世代へ」
大阪府作業療法士会
副会長 山下 協子



日本のOTの有資格者数は、70675人(2014.8.1)で、アメリカに次いで世界第2位だそうだ。「・・だそうだ」と書いたのは、「第2位」という言葉が、私にとってはまるで実感を伴わないからである。確かに身近な病院には、ほぼ間違いなくOTが居るようになったと思われる。しかし、「作業療法(士)」や「OT」と聞いて、知っているかという人は何人居るだろう。限りなくゼロに近いのではないかと心細い考えが脳裏に浮かぶ。数は増えたけれど、本当に必要な職業として日本に根づいていけるのだろうか。

普通の、一OTとして経験してきたことから、私が何を学び、何を考えてきたのかを話させてもらい、異論・反論も含め、皆様が今後に向けて、社会の中でどのような役割をはたして行くのか、どのように若い人々を支えていくのかを考えていただく一助になれば幸いです。